

カトリック六甲教会 教会報

2013

10

No.502

戦いの呼びかけ

助任司祭 片柳 弘史

「戦わなければならない、もっと深い戦いがあります。それは、悪とその誘惑を拒絶して善を選び取ろうと、力強く勇敢に決意することです。それこそがキリストに従うということであり、自分の十字架を取るということです。それは、深い次元での悪との戦いなのです。」
フランシスコ教皇

9月7日を「シリア、中近東、そして全世界の平和のために捧げる断食と祈りの日」と宣言し、サン・ピエトロ広場で10万人での祈りの集いを開催するなど、世界の平和について積極的なアピールを続けているフランシスコ教皇が、9月9日のアンジェラス・メッセージの中で全世界の信徒に向かって戦いを呼びかけました。それは、暴力や武器による戦いではなく、祈りによる悪との戦いでした。

「わたしたちには、戦わなければならないもっと深い戦いがある」と教皇様はおっしゃいます。誰かと悪口を言い合ったり、互いを傷つけ合ったりするような表面的な戦いではなく、もっと本質的な、わたしたちの人生を左右するほどの戦いがわたしたちを待っているというのです。それは、悪との戦いです。「悪とその誘惑を拒絶して善を選び取ろうと力強く決意すること」、そしてそれを実践していくこと。それこそが、わたしたちの戦うべき本当の戦いなのです。

この戦いの戦場は、わたしたちの心の奥深くです。わたしたちは、自分の心の中に入り込もうとしている悪、あるいはもうすでにわたしたちの心の中に入り込んでしっかりとした障壁を作ってしまった悪と戦わなければならないのです。たとえば誰かへの怒りや、「ほら、あいつはお前の評判を落そうとしているぞ」と、悪はわたしたちの心に囁きかけます。そして、わたしたちの心に相手に対する怒りを燃



悪と戦う大天使ミカエル

え立たせるのです。そんな誘惑の声を聞いたとき、「そんなことどうでもいい。神様がわたしをどう思われるか、それだけが問題だ」と言ってきっぱり拒絶すること。それが、わたしたちの戦いです。一度、怒りが心に入り込むと、それは憎しみとなって堅固な障壁を築き上げます。こうなると敵は強力です。深い祈りの中で、謙遜とゆるしの武具を持って戦いを挑む以外にありません。どうしてもゆるせない相手を、神の愛の中でゆるしてゆく葛藤。それが、わたしたちの戦いなのです。

心の戦場でわたしたちの戦う相手は、悪そのものであり、悪に誘惑されて墮落してしまったわたしたち自身です。悪に誘惑されたわたしたちの心と、神に立ち戻ろうとするわたしたちの心の間で戦いが起こるとき、心は乱れ、大きな苦し

みが生まれます。その戦いに打ち勝ち、悪を斥けるとき、初めてわたしたちの心に平和が訪れるのです。真の平和を勝ち取るために「戦わなければならない戦い」を、戦い続けましょう。



新シリーズ

「何でも知っとこ」(7)

“ロザリオの祈り”

助任司祭 片柳 弘史

今月は「ロザリオの聖母」の月なので、ロザリオの祈りについて簡単に説明しておきたいと思います。

(1) 祈り方

途中で玄義を黙想する祈り方が一般的です。玄義には、喜び(月・土)、光(木)、苦しみ(火・金)、栄光(日)の四玄義があります。玄義の代わりに、誰かのために取り次ぎの祈りをしたり、他の意向を入れたりすることもできます。

(2) 由来

・イスラム教や仏教にも似たような祈りのし方があり、人類共通の祈りの形だと言えます。広い意味で、神秘主義の系譜に属しています。同じ祈りを唱え続けることで忘我の境地に至り、神の恵みに満たされることを目指すからです。道具を使わないが、「主の御名の祈り」も同じ系統に属します。

・呼び名は、13世紀のマリア伝説に由来すると言われていています。あるシトー会士が唱えた50回の天使祝詞が、薔薇の花となり聖母の冠となったというのです。天使祝詞の回数は、修道会等によってさまざまなものがあります。

・13世紀初頭、アルビジョア十字軍が最終段階を迎える中で、聖ドミニコがロザリオの祈りを広めたと言われていています。ロザリオは、異端と戦うための最高の武器として広まっていきました。

・50回の天使祝詞を3回唱えることで、詩篇150篇全てを唱えたのと同じ効果があるという考え方もあります。

・10月7日は「ロザリオの聖母」の記念日です。1571年のこの日、教皇、スペイン、ベネツィアによる神聖同盟軍が、オスマントルコを海戦で破ったことがロザリオの祈りの結果であるとされ、この日が「ロザリオの聖母」の記念日とされました。

(3) 聖ドミニコとロザリオ

マリアは、聖ドミニコの夢に現れて次のように語ったと言われます。

「あなたは余りにも異端者たちに対して議論しすぎる。あなたも自分だけの努力で彼らを信仰へ連れ戻そうとしている。人々の心をかちとるには信仰の主な玄義を示す程度にとどめ、あなたのことばに耳を傾ける人々とともに、途中で度々祈るようにせよ。ロザリオをひろめよ。そうすれば罪人は改心に導かれよう。」

(4) 効果

ロザリオには、次のような効果があると考えられます。

- ① 心を鎮め、わたしたちの行く手を聖霊の光で照らす。
- ② 母のとりなしによって、大きな恵みが与えられる。

祈ってみれば分かりますが、ロザリオの祈りの効果は絶大です。ロザリオは、わたしたちを絶望の淵から救ってくれる命綱だとさえ言えます。しばらく祈っていないという方は、この機会にぜひもう一度ロザリオを手にとってみて下さい。

忘れないで！

～東日本の被災地から～

被災地のみなさんも頑張っています。

マリアの宣教者フランシスコ修道会

原町修道院（福島県南相馬市）シスター小沢

私たちがこちらに来て間もなく5カ月が経とうとしています。お陰さまで、ここの生活にもだいぶ慣れてきました。道もいろいろ覚えて、近道や回り道も分かってきました。“何を買うとき”は、どこのスーパーが良さそうと言うのも分かってきました。しかし、大震災から2年半になりますが、人々が希望を見出しているのかどうかは良く分かりません。「うちの主人がまだ見つかっていません」という方にも出会いました。個人のお宅の除染がだいぶ進んで、私たちの近くでも、屋敷林の杉の木を60本、160本と切り倒した家族があります。せっかく何十年もかけて育ってきた木が切り倒されるのは本当にもったいないです。また切り倒された沢山の木は、放射線量を調べて問題なければお風呂の薪にできるようですが、その検査さえできず、そのまま放置されているところもあります。それ以外にも今年のように激しい雨が降ると、土砂崩れしないかと地域の人々の大きな心配の種になっています。

ご近所の方で除染をしたから早速家庭菜園で、きゅうり、なす、ししとう、ゴーヤなどを作り始めた人もあります。ある日「よかったら食べて！」と、沢山持ってきてくださいましたが、内心「大丈夫かな？」と気になりました。でもここに来て早5カ月、放射能に対する度胸？も付き、気持ちよく頂いて、早々に神戸時代覚えた「ゴーヤのおひたし」を作りました。そして、地元の皆様にもお裾分けしましたところ「珍しいねえ～、おいしいねえ～」と喜んで食べてくださいました。

稲の試験田の苗が大きく育ってきました。収穫して問題がなければ来年から本格的に水田を再開するのでしょうか。機械によって植えた苗ではないのに、稲の育ち具合がよく、揃って一面同じ高さに見えることに感動します。隣の田んぼには水だけ張ってあります。シラサギが一羽やってきて餌を探して真っ黒になって飛んで行きました。しばらくするとまた、真っ白なシラサギが一羽飛んできました。近くの川で身を清めてきたのでしょうか。田んぼのある周辺には川が必ずあります。水路もいたるところに流れています。勿論、水がなければ水田は出来ませんが、こちらに来て改めてそのことを強く感じました。水田と水田の間を涼しげに軽やかな音を立てて、澄み切った清流が荒んだ心を洗い清めるように流れています。そんな清流だけを見ていると、のどかで平和な田園のある里山のようにです。しかし、悲しいかな周りを見回すと現実はそのようなことを思い知らされます。

さて大家さんの提案で大家さんのログハウスを使って、毎月1回「気晴らし会」をしています。私たちはチラシを作るだけで、人を集めるのは大家さん。第1回は45人、2回目以降は30人前後で安定してきたようです。お茶を飲んでおしゃべりするだけの茶話会ですが、時々思いがけず親しい方と出会うこともあるのです。残念なことは、この地域から遠く離れた場所に避難した若い世代の方々です。したがって、この地域に残っているのは、年老いた「じいじ」「ばあば」の世代が大半を占めています。

共同体とは、あらゆる年代の集合体でなければ、どんなに素晴らしいグループであっても限界があることをこの現実を見て知りました。この地域に住む人々も、そのことに初めて気づかされたと思います。なぜなら茶話会に集う人々から聞かされる言葉に「他に楽しみがない」と、そう言って集まって来られるからです。

また、信徒の方を対象に、主任司祭の提案で、毎月初金曜日（六甲？）ではなく、初木曜日に「聖体礼拝とロザリオの祈り」を修道院でしています。集まるのは



頑張れ福島！

6・7人から10人程度で、メンバーは固定してしまっていますが、共に祈り、あとでお持ちよりの茶話会もあって、楽しいひと時を過ごしています。神父様のお考えは、いずれ仙台教区の教会が再編成（地区割り）される時に備えて、少しでも信徒を霊的に養成しておかなければ、とお考えのようです。

7月27日～29日には恒例の「相馬野馬追い祭」が開催され、今年は420騎が行列に参加しました。今年の最年少の騎士は5歳とか。「執行委員長 南相馬市長 桜井勝延」という大きな「肩書」を左肩にかけて、市長さんは馬上からマイクなしの大声でご挨拶。ここでは市長さんも馬に乗れないといけないのでしょうか。市長さんも、きっと子供の時から乗馬で鍛えられているのだろうか、などと考えていました。震災時、津波に流されたのは人間だけではなく、動物も沢山いたのです。その証拠に今年行列に参加した馬の中には、津波に流されて泳ぎ、顔や脚に大けがを負いながらも助かった馬も何頭か含まれていたようで、そのことを聞かされ非常に感動しました。

「馬も人も2年半近く経ってもまだ心の傷も外傷も完治していない。しかし馬一頭だったけど助かってよかった。必死に泳いで助かろうとしたんだ！」と。どのような厳しい状況であっても市民が一丸となって大きなお祭りをやり遂げる中で、復興への意気込みも高まったでしょう。

やっと立ち入り禁止が解除され、入れるようになった浪江の町も、まだまだ震災直後のままです。住民の方々はどのような気持ちでおられるのでしょうか。事故を起こした原発の煙突が遠くに見える距離です。その煙突を見ながら思うことは、現場で収束のために働いている方々が、今、どのような気持ちでおられるのだろうか。汚染水が漏れたとか、次々に問題が出てきて、対応が間に合わない状況は、頑張ろうとする元気さえ損なってしまうのではないかと心配です。少しでも早く新しいエネルギーが開発されて、エネルギー問題全体が安定へと向かうようにと祈らざるを得ません。

六甲教会の皆さまから、野菜畑の支援に沢山のご寄付をいただき、ありがとうございます。阪神淡路大震災の復興のように、東日本も一日も早く復興できることを信じたいですが、原発問題が片付かないうちは、まだのような気がして弱気になります。でも神様は、すべてをご存知です。きっとその日が来ることを信じ、みんなで力を合わせて前向きに歩んでまいります。どうぞ、これからも末永くご支援とお祈りをよろしく願いいたします。



解体が発表された住宅地に座礁した漁船「共徳丸」(宮城県気仙沼)

津波によって遥か内陸に乗り上げた、大きな漁船の光景をご存知でしょうか。気仙沼市内の鹿折地区に座礁した「共徳丸」です。津波被害を象徴する光景として、世界中に取り上げられて来たこの船も、ついに取り壊しがきまったようです。存続か解体かを巡り様々な議論が行われる最中の、取り壊しの決定でした。(山本)

※広報部ではシリーズ「忘れないで！東日本の被災地から」への原稿を募集しています。被災地でのボランティア活動に限らず、遠く神戸からの支援活動や被災地への思い等、皆さまからのご寄稿お待ちしております。(広報部)

第 34 回 三日月会総会のご報告(9 月 16 日 敬老の日)

三日月会会員 浅沼



2013 年 9 月 16 日(月)午後 1 時より、大聖堂に、三日月会会員が集い、松村神父様司式による御ミサに与りました。引き続き、神父様の講話をお聴きした後、イグナチオホールにおいて、三日月会総会が開催されました。

鈴木会長司会のもと、松村神父様の、「敬老の日」に相応しいご挨拶と、お祈りの後、事業報告、会計報告、審議事項等が行われました。会員総数 518 名のうち、90 名を超える会員が出席され、新入会員や、初めて三日月会に出席さ

れた会員のご挨拶、90 歳を超える会員のご紹介等、和気藹々とした、和やかな雰囲気の中で、進められました。

総会日を除く、通常の例会日は、参加者が少なくなる傾向がありますが、会員同士の相互の交流を深めるためにも、積極的にご参加戴きたいと思えます。六甲教会からもお土産をご用意戴き、散会となりました。

《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします

三日月会

10 月 21 日(月) 例会

典礼部

10 月 19 日(土) 10:00 部会

宣教部

10 月 27 日(日) 11:15 部会

社会活動部

10 月 4 日(金)初金ミサ後 連絡会 第 2 会議室
チャリティーバザーの打合せを致します。

出店ご希望グループの責任者は必ずご出席下さい。

施設管理部

10 月 27 日(日) 10 時ミサ後 部会

広報部

11 月 2 日(土) 教会報 11 月号発行

《お知らせ》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★ 社会活動部より ★

10 月 2 日(水) 10 時 手芸の集い (第 1・2 会議室) どなたでも参加ご自由です。

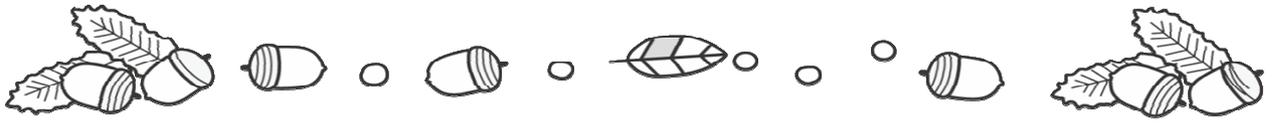
10 月 12 日(土) 10 時 炊き出し (イグナチオホールお台所)

※ 小野浜グラウンドにて配食や、おじさん達のお話し相手だけでも OK です。

10 月 20 日(日) 10 時ミサ後 ふれあい広場 (イグナチオホール)

お弁当・食料品・手作り作品等の販売。東北物産展。

10 月 28 日(月) 9 時 30 分 ともしびケーキづくり (イグナチオホールお台所)



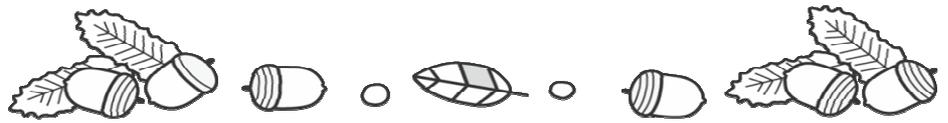
社会活動部より支援のお願い！

10月6日・13日・20日の日曜日の10時ミサ後に、山口カルメル会・教会の母マリア修道院（観想修道会）支援のための、手作りのクリスマスカード・スリッパの予約注文を受付けます。

日曜日以外にも、教会受けでも予約注文を受付けますので、多くのみな様のご協力をお願いします。



♪（クリスマスカード&スリッパは、見本も展示します。）



★ 教会学校だより ★

1 教会学校 10月の予定

- (1) 10月5・12・19日・26日は、通常授業（午後2時30分開始、ただし解放クラスは午後1時より）教会しおり掲載の「教会学校錬成会（19日から20日）」は来年1月に延期されました。
- (2) 10月13日は、子どもと共にささげるミサです。
- (3) 11月9日はバザー前日につき教会学校はありません。

2 「保護者の集い」について

2学期も片柳神父様の保護者の集いを下記の要領で行います。（興味のある方は、教会学校の保護者以外の方も大歓迎です。是非お誘いあわせの上、ご参加ください。）

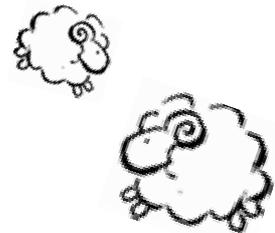
記

日時：10月26日（土） 15時～

11月16日（土）

12月7日（土）

場所：イグナチオホール



★墓地っ子だより★

＜墓地、埋葬等に関する法律＞

近親者が亡くなった時、殆どの方は病院や葬儀社に全てを依頼されます。理由はめったに起こることでは無いし、方法もよく判らないので専門家に任せようということでしょう。しかし、火葬、埋葬、墓地などに関しては法律が公衆衛生法の中に制定されています。

- ・「埋葬」とは、死体（妊娠四箇月以上の死胎を含む。以下同じ）を土中に葬ることをいう。
- ・「火葬」とは、死体を葬るために、これを焼くことをいう。
- ・「改葬」とは、埋葬した死体を他の墳墓に移し、又は埋蔵し、若しくは収蔵した焼骨を、他の墳墓又は納骨堂に移すことをいう。

- ・「墳墓」とは、死体を埋葬し、又は焼骨を埋蔵する施設をいう。
- ・「墓地」とは、墳墓を設けるために墓地として都道府県知事の許可をうけた区域をいう。
- ・市町村長が、第5条の規定により、埋葬、改葬又は火葬の許可を与えるときは、埋葬許可証、改葬許可証又は火葬許可証を交付しなければならない。
- ・墓地の管理者は、上記の埋葬許可証、改葬許可証又は火葬許可証を受理した後でなければ、埋葬又は焼骨の埋蔵をさせてはならない。

以上、1部をピックアップしましたが、普段使っている「納骨」という言葉は出てきません。「墳墓」に該当します。また、「納骨」の意味で「埋葬」はよく使いますが、法律的には死体を土中に葬る、いわゆる土葬のことですので、納骨とは全く違うことになります。さらに、遺骨の移動は良く行われますが法律的には「改葬」となり、改葬許可証または火葬許可書が要ることになります。しかし、大昔と言うことで書類が無く、ずさんな処理をしている場合もあります。

教会では、法律に基づく処理に努めております。その際、利用者の皆様には厳しい注文をお願いすることがあります。法律を順守するためとご理解ください。 (墓地委員会 SF)

～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．

～社会活動部学習会～

日時：10月27日(日) 10時ミサ後
場所：イグナチオホール

10人に1人になると言われている“認知症”や“痴呆症”。病気の違いや、病気の原因や症状、初期症状に早く気付くための予防法や治療法を学びます。
 また、病気になった家族等とのかかわり方や、看病について学びます。
 どなたでも参加ご自由です。

テーマ：“アルツハイマー型・痴呆症”や“認知症”を知る。
講師：大西 道生 先生(精神科医)

症状：進行する認知障害(記憶障害、見当識障害、学習障害、注意障害、空間認知機能や問題解決能力の障害など)であり、生活に支障が出てくる。重症度が増し、高度になると摂食や着替え、意思疎通などもできなくなる・・・。



♪♪「クリスマス音楽のつどい」で歌う会・メンバー募集 ♪♪

12月23日(月・祝)14時から「クリスマス音楽のつどい」が開かれます。オルガンメディテーションの一環として、この日、音楽を通して喜びを分かち合います。

みなさんも一緒にクリスマスの歌を歌いませんか?教会内に、曲目と練習日程をポスターやチラシでお知らせしています。教会内はもちろん教会外のお友達も誘ってお越し下さい。聖歌隊員が丁寧に指導いたします。

練習曲は「地にも空にも」(カトリック聖歌 122 番)、「きかせて下さい」、「ディンドン鐘が鳴る」、「We three kings of orient are」(三人の博士)、「Child in a manger」(まぶねの御子)の5曲。親しみやすい曲ばかりですべて日本語で歌います。

練習予定日は以下のとおり。(教会内の行事の関係で変更の可能性があります。)

10月5日(土)・20日(日)、11月2日(土)17日(日)

12月1日(日)7日(土)15日(日)、22日(日)

土曜日は午前10時～12時、日曜日は11時～12時半です。場所は主聖堂。

聖歌隊メンバー一同、お待ちしております。

お申込みは聖歌隊・詫(つげ)まで。電話:090-3714-1882

直接練習場所へお越し下さっても結構です。



2013年 チャリティーバザー開催

チャリティーバザーを下記の通り開催いたします。

日時:11月10日(日) 9時ミサ終了後 10:00~14:00

当日10時ミサはありません。9時ミサとなります。雨天決行。
詳細はチラシを作成し配布いたします。皆さまよろしくご予定ください。

(地区会 バザー企画チーム)



カトリック入門・養成講座・聖書研究などのご案内

2013年10月～2014年3月							
曜日	週	開始時刻	クラス名	対象	担当者	場所	開始日
日	第1・3	11:00	キリスト教入門	欄外注★1	コリンズ神父	会議室5	11/3
	第2・4	11:00	キリスト教入門	どなたでも	Sr.楠瀬	会議室5	10/13
	毎週	11:00	中高生会(欄外注★2)	中高生	リーダー	中高生会室	10/6
火	第1	10:00	聖書を読む	どなたでも	コリンズ神父	会議室1	11/5
	第2・4	10:00	聖書入門	どなたでも	Sr.大西	会議室4	10/8
	第1・3	15:00	生活の中で信仰を生きる	どなたでも	片柳神父	会議室4	10/1
	第1・3	10:30	生活の中で信仰を生きる	どなたでも	片柳神父	三ノ宮パウロ書店	10/1
	第2・4	10:30	生活の中で信仰を生きる	どなたでも	古泉	三ノ宮パウロ書店	10/8
水	第2・4	10:00	キリスト教入門 ～キリストを知る旅～	どなたでも	Sr.楠瀬	会議室3	10/9
	第2・4	10:00	生活の中で信仰を生きる	どなたでも	古泉	会議室5	10/9
木	第2・4	14:00	みことばを聴く	どなたでも	コリンズ神父	会議室1	11/14
	第3	15:00	「カトリック教会のカテキズム要約」を読む	一般信徒	三輪	会議室4	10/17
	第2・4	19:00	聖書による信仰入門	どなたでも	吉村	信徒会館	10/10
金	第2・4	10:30	聖書研究(英語)	どなたでも	コリンズ神父	会議室5	11/8
	毎週	19:00	祈りの入門講座	どなたでも	片柳神父	三ノ宮パウロ書店	10/4
土	第1～4	14:30	教会学校	小学生	リーダー	信徒会館	10/5

★1 対象:入門志願者のみ。但し、紹介者同席可

★2 中高生会は学期中のみ

場所・天候などにより、休講になる場合があります。事前にご確認ください。

定例的に行われる集い

毎第三月曜日	14:00	三日月会例会とミサ	熟年の信徒の方々	コリンズ神父とスタッフ	イグナチオホール
3・5・7・11月の 第3木曜日	14:00	ベタニアの集い 聖体授与式と茶話会(車での送迎付き)	通常のミサにあず かれない高齢者	社会活動部 担当:竹内博子	イグナチオホール
5・9・2月の 日曜日	14:00	結婚準備セミナー	カトリック教会での 結婚式を望む人	セミナースタッフ	第1・2会議室

カトリック六甲教会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21
http://www.rokko-catholic.jp

TEL.078-851-2846
FAX.078-851-9023

《図書室からのお知らせ》

2013年9月に入った図書から



★はじめてよむこどものせいしょ ロックとアイリッフェ 著 サンパウロ

ちいさなこどもむけ いちばん したしまれている せいしょ ものがたり
せかいのはじめ ノアのはこぶね ごせんぞさまアブラハム・・・ネヘミアのいのり
イエスさまのたんじょう・・・しんせつなサマリアじん しゅのいのり イエスさまのふっかつ
旧約と新約のエピソードをそれぞれ10話 美しい切り絵を添えて12頁ずつきかせてくれます。
巻末には索引(ことばのせつめい)もついて、聖書への親しみと温かい気持ちを育ててくれます。

★マリアのおはなし マイテ・ロッシュ 絵と文 竹下節子 訳 ドン・ボスコ社

マリアはイエスのお母さんになれてとても幸せでした。つらく苦しいことも、イエスといっしょに愛する神さまと人びとのためにおさげしました。マリアは、今も、いつも、お母さんのように、わたしたちを見守っています。(表紙から)

★はじめてのキリスト教 C・ペドッティ 著 関谷 義樹神父監修 ドン・ボスコ社

この本は、聖書の物語、教会の歴史(日本も)、聖人たち、教会の教えなどを紹介している。親しみやすい文章とイラストで、子どもだけでも、大人と一緒にでも、楽しく読めるキリスト教の入門書。

★回勅 パーチェム・イン・テリス—地上の平和 教皇ヨハネ23世 ペトロ文庫

東西冷戦のさなかキューバ危機を目の前に危機回避の仲介を行った教皇、また第2バチカン公会議を招集した教皇ヨハネ23世(まもなく列聖される)が、死の直前に書き上げた社会回勅。戦争回避のためには「人間の心にまで及ぶ徹底した完全なものでなければ、…実現しません。」「軍備の均衡が平和の条件であるという理解を、真の平和は相互の信頼の上に上にしか構築できないという原則に置き換える必要があります。わたしは、これが到達可能な目標であることを主張します。」「(」内は本文)。50年前に書かれた回勅の新訳です。またホアン・マシア神父が解説を書いています。

★使徒的勅告 マリアーリス・クルトオス—聖母マリアへの信心 教皇パウロ6世 ペトロ文庫

第2バチカン公会議「教会憲章」とその後の典礼刷新等を踏まえ展開される、教皇パウロ6世の代表的マリア論。同教皇の2つの回勅と2つの使徒的勅告が付録されている。

★根本問題をつかめ 来住 英俊 ドン・ボスコ (キリスト教入門書I)

★イエス登場 来住 英俊 ドン・ボスコ (キリスト教入門書II)

★祈りへの旅立ち 片柳 弘史 ドン・ボスコ

マザー・テレサに導かれながら、心のいちばん奥深く、イエスがいる場所へと旅をする黙想の本。

FEBCのラジオ番組の単行本化した。黙想を初めてという人におすすめ。

★キリストと出会う 百瀬 文晃 女子パウロ

★よくわかるカトリック 小高 毅 教文社

★日本二十六聖人 長崎への道 巡礼マップ カトリック中央協議会

当教会からも参加があった『長崎への道』の地図・解説付きガイド

★仕えるために ジャックベシク 越前喜六 編著 サンパウロ

★イエズス会教育の特徴 梶山 義夫 訳 ドン・ボスコ

★第二バチカン公会議公文書 改訂公式訳 カトリック中央協議会

訳語の調整などの理由で刊行が遅れていた公会議公文書の改訂が9月末にやっと出ました。(記事を書いている現在はまだ未発刊)公会議後の諸典礼書日本語版や新教会法典の刊行に伴う教会用語の見直しが行われ、公会議公文書にもその反映を求めて全面的に用語統一を行った司教団の公式訳。高見大司教による「総序」のほか、索引と各文書の解説も収録している。880ページ。カトリック信者以外の人にも幅広く読まれることが期待される。また信者にとっては11月に幕を閉じる「信仰年」を総括する上で大きな助けになる。



みんなの広場

テレジア

ヨハネ 三好

霊名（洗礼名）にテレジアを選ぶ人はかなり多いようだ。洗礼によって古い“私”は死んで新しい“私”が生まれる。新しく生まれたのだから新しく名前を付けなければならない。受洗後はこの名前が“私”の本名だが意識している人は少ないようだ。

10月15日は聖テレジアの記念日になっている。テレジアが生まれたのはスペインのカスティリア州アビラであった。19歳のときに高い理想をもってカルメル会修道院に入ったが、当時の修道生活の緩慢に失望、1562年にアビラで本来の会則に立ち返った「女子跣足カルメル会」を創立し、十数人の修道女たちとともに厳しい修道生活を始め、カルメル会の囲いの中から当時の社会に大きな影響を及ぼした。16世紀のカトリック教会改革にも多くの影響を及ぼし、著書も残し今も多くの人々に読まれている。1582年67歳でアルバで死去したがその霊性は教会博士と認められている。

それから280年ほど経って聖テレジアの名を受けた少女がその跡を追ってカルメル会に入った。病弱で外面では目立つ業績はないまま24年の地上の生を修道院の囲いの中で終えた。この修道女が聖アウグスチヌスやアキノの聖トマ、その名を受けた聖テレジアと同じ教会博士と認められている。後から生まれたテレジアの記念日は10月1日になっている。

今月はもう一つおそらく殆ど覚えている人はいないであろう記念日がある。「守護の天使」、これは10月2日。天使というと羽の生えたカワイイ男の子を想うかも知れないが、記念日の第一朗読にある天使はそんなものではない。神は人間一人ひとりに天使を遣わされている。「見よ、わたしはあなたの前に使いを遣わして、あなたを道で守らせ、わたしの備えた場所に導かせる。あなたは彼に心を留め、その声に聞き従い、彼に逆らってはならない。彼はあなたたちの背きを赦さないであろう。彼はわたしの名を帯びているからである。」（第一朗読）。その天使を斥け無視する「剛の者」もいるのでは。人間には一人残らず必ず、二人の聖テレジアにも僕にも「守護の天使」は遣わされている。

9月の教会報巻頭言はコリンズ神父様の「沈黙」だった。最近沈黙は無為無駄だと思われているようだ。ミサでも“沈黙”の時は殆どなくなった。特にオルガンの沈黙妨害は甚だしい。日々の営みの中で沈黙の時間を保つことは屢々至難の業ではある。それでも、二人の聖テレジアの霊性は沈黙の中にあっし。守護の天使の声は沈黙の中でしか聞こえない。“沈黙”は神に浸る時間ではなかったか。

「毎日のミサ」（カトリック中央協議会）という冊子が発行されている。聖暦年の中で生きようとすれば机側に必須ではないか。主日でない祝日や記念日は日々とは関わりがなくてよいのか。信仰は日曜日だけのものではない。（終）

<p>教会報 11月号の発行は、11月3日(日)です。 編集会議 10月27日(日)です。 記事原稿は、10月20日(日)正午までに 信徒会館受付へご提出願います。(広報部)</p> <p>http://www.rokko-catholic.jp</p>	<p>カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電 話 078-851-2846 F A X 078-851-9023 発行責任者 松 村 信 也 編 集 広 報 部</p>
--	--